

左京二条三坊六坪の調査

— 第420次

1 はじめに

店舗建て替えにともなう発掘調査。調査地はネットヨタの敷地内で、平城京左京二条三坊六坪の南半部にあたる(図193)。これまで、今回の調査地のすぐ西側では平城第164-12次調査(1985年度)が、また東側では第215-1次調査(1990年度)が実施されており、第164-12次調査では掘立柱建物の一部、および二条条間南小路の北側溝、井戸などを、第215-1次調査では掘立柱建物2棟のほか、二条条間南小路の北側溝・東三坊坊間路の西側溝、井戸2基などを検出している。また、第164-12次調査では三彩軒丸瓦が出土している。

今回は、これら2箇所の調査地の間で発掘調査をおこなうかたちとなったが、厚い盛土のために安全対策として、幅広い法面を設ける必要があった。このため、当初約370㎡であった調査面積は実質的に約90㎡となり、東西の既発掘範囲とは重複していない。調査期間は2007年7月26日から8月23日までである。

2 基本層序

今次調査の基本層序は、西隣の調査(第164-12次)のそれとほぼ一致している(図194)。調査地付近では盛土が

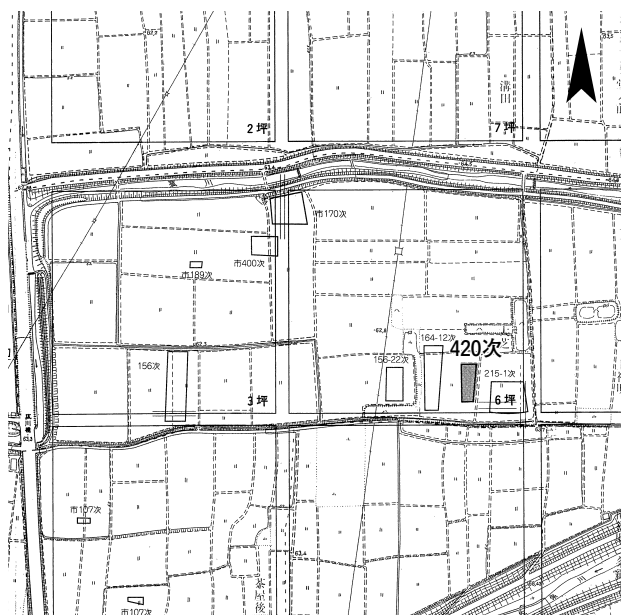


図193 第420次調査区位置図 1:4000

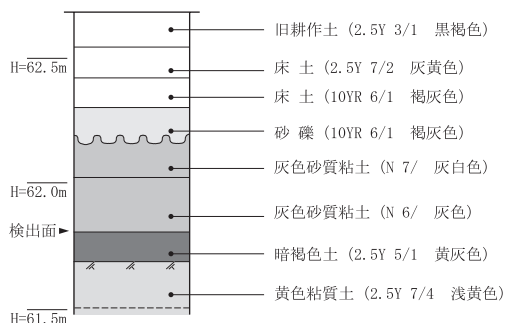


図194 第420次調査土層柱状図

約2.5mと厚く、この下位に旧耕作土・床土がある。床土の直下には厚さ約10~30cmの砂層が堆積しており、その下位に灰色砂質粘土、暗褐色土が続く。床土直下の砂層は、下半部が細粒砂、中・上部が粗砂や砂礫からなり、調査区の南端から北半部にかけて堆積しているが、調査区の北端では薄い層となる。この砂層は佐保川の氾濫でもたらされたものとみられる。

洪水砂に覆われた灰色砂質粘土はほぼ無遺物の土層で、粘性が強い。層厚は約40cmで、上部は灰白色を呈する。暗褐色土はシルト質の土層で、奈良時代の遺物を含んでいる。遺構検出面は暗褐色土の上面(標高約61.8~61.9m)である。暗褐色土の下位では黄色粘質土(いわゆる地山)を確認している。なお、調査区中央部の西壁付近では湧水が激しく、部分的に調査を断念したところがある。

3 検出遺構

第420次調査で検出した主な遺構は下記の通りである(図195)。

SB9170 調査区の東壁に沿って南北に並ぶ3基の柱穴である。建物は北および東へと広がるものとみられ、検出できたのはその西南隅に限られる。このため、建物が東西棟であったか、南北棟かは不明である。柱穴は3.0m(10尺)間隔で並び、中央の柱穴には柱根(直径約25cm)が、南端の柱穴には礎板が残っていたが、北端のものは柱痕跡をとどめるのみであった。柱穴の深さは、遺構検出面より最大で約75cm。

SB9171・9172 調査区の北半部~南半部で検出した4基の柱穴で、南北に並んでいる。一列の柱列を構成するようにもみえるが、真中の柱間隔がやや広く、この部分は5.6mである。一方、これ以外の柱間隔は4.8~5.0m(16尺に近似)で、京内の掘立柱建物の梁行に近い。そこで、今次調査では不明確な部分も多いが、柱穴を北側・南側

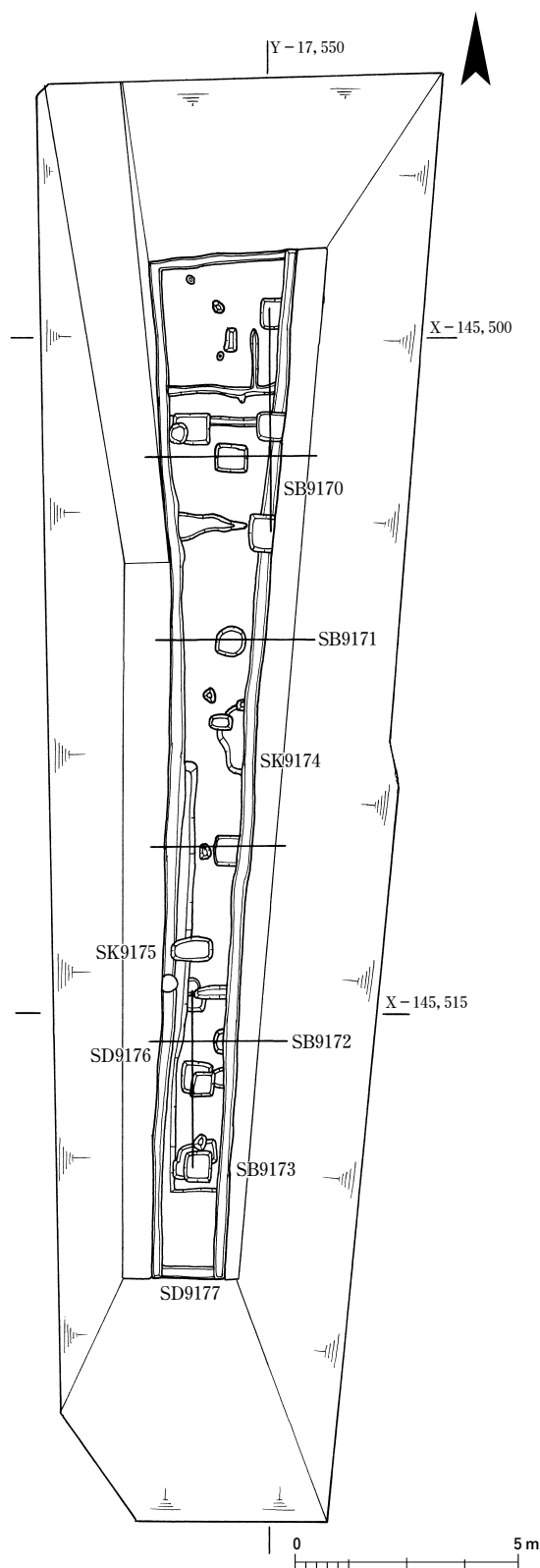


図195 第420次調査遺構平面図 1:200

で2基ずつまとめ、それぞれを掘立柱建物（東西棟）の一部と考えておきたい。なお、これらの柱穴は直径約50cm、検出面からの深さは30～40cmで、SB9170のそれらに比し小さい。

SB9173 調査区の南半において南北に並ぶ3基の柱穴で、東西棟建物の妻柱筋にあたると推定できるが、建物が西へ延びるか、東へ展開するかは定かでない。柱間隔は約2.4m（8尺）。柱穴の一部はSD9176（後述）を埋める土によって覆われており、このためこの溝より古い建物であるといえる。柱穴の深さは遺構検出面より約55cm。

SK9174 調査区の中央部で検出した不整楕円形の土坑で、東半分は調査区の外である。埋土は黒色の有機質シルトで、検出面からの深さは約20cm。遺物は出土していない。

SK9175 調査区の南半部西側で検出した土坑で、南北溝より古い。埋土は黒色の有機質土で、遺物は出土していない。

SD9176 西排水溝に沿って延びる素掘りの南北溝。調査区の中央から南端にかけて、西壁沿いで検出したが、溝の西半分は調査区外である。検出面からの深さは約30cm。

SD9177 調査区の南端でその一部を検出した東西方向の流路。第164-12次調査では旧河道としている。湧水のため完掘できなかったが、埋土は灰褐色の砂である。

4 出土遺物

第420次調査で出土した遺物は少なく、土器は整理箱で4箱に過ぎない。土器片はおもに奈良時代のものであるが、いずれも細片からなる。また、瓦類も丸瓦・平瓦合わせて10.7kgに限られている。なお、軒丸瓦6135Aが西排水溝から出土している。

5 まとめ

今回の調査では、近隣での調査（第164-12次・215-1次）と同様に掘立柱建物の一部を検出し、左京二条三坊六坪の南部の状況について知見をくわえることができた。すなわち、既調査地に挟まれた調査区の中で、少なくとも4棟の建物を新たに確認した。しかしながら、隣接する既調査地との間に跨る建物等は確認できなかった。

（森川 実）